

Eureka XIII

六年制通信 No.20 令和7年9月26日(金)号

手間を惜しまない

18日の中学行事のクオリティは、高校部の先輩たちにも見せたいと思うくらいでした。進行が上手だったので、機械トラブルがあったにもかかわらずスムーズな印象を受けました。裏方の諸君、ご苦労さんでしたね。舞台上も観る側も、中学生にありがちな子どもじみた振る舞いもなく、気持ちの良い一日でした。音楽班でタップを踏んだ女子生徒は二年生の西垣さんでしたっけ、体幹がしっかりしていて素敵でした。これからも練習してくださいね。私は水谷豊がメガホンをとった「TAP」という映画を思い出していました。皆さんもよかったら観てください。ラスト、震えますよ！

さて、最近、というかこの数年ですかね、何でも「速く手軽に」が流行しているように思います。「時短」という言葉をよく耳にするようになりました。そして、必ず「時短=いいことだ」というニュアンスで使われているように私には思えます。違いませんか。そうだ、録画しておいた映画やドラマを二倍速で観るような風潮が出始めたころから、この時短なる言葉がやたら聞こえてきたのではなかったか。あなたはまだそんな手間をかけているのですか、こうすれば時短が可能ですよ、時間をかけていたら損ですよ。時短を賛美する声にはこんな含みがあるように思います。私はこういう風潮が嫌いです。時間をかけるのは損だという考え方が嫌いです。私は逆に時間をかけずにできたものはもろく、失いやすく、それゆえ価値の低いものだと思っています。

かつて学問の方法において、やさしく言えば勉強の仕方について、時短こそ最良ということ説いた人はいないと思います。いたらエセ学者です。本物は絶対にそんなことは言いません。「ゆっくりでいいから着実に、そして綿密に」と、必ずこれに似た表現をするはずですよ。私は人間の理解するスピードは、生物学的にある程度決まっているのではないかと思います。肉体的な面、物理的と言ってもいいと思いますが、そういう一面において、時短の限界というものはあるはずですよ。私たちがどう頑張ってもみても100mを5秒で走れないように、です。目の前に流れる光景を鑑賞するにも、絵画でも映画でも、あるいはまた美しい音楽でも、きちんと鑑賞するにはある程度の時間が必要なのだと思います。「ある程度の時間」には「繰り返す時間」も含まれます。物語を読んだり聞いたりして理解するのも同じことだと思っています。

ある新聞の投書欄でしたかな、なるほどと感心する話がありました。何か縫物をするのに、雑に作ってしまって母親に叱られたというエピソードです。作る時間より使う時間の方が長いから、もっと丁寧にしたらどうかと注意されたというのですね。素晴らしい言葉ですよ。日常の行動にもたくさん当てはまるように思いませ

んか。掃除一つ取り上げても、雑に「時短」で済ますより、使う時間の方が圧倒的に長いのだからもっと丁寧にしてもバチは当たりませんよね。

英語には **Slow and steady wins the race.** という諺がありますが、これも時短を戒めていると考えてもいいでしょう。「急がば回れ」と訳されていますが私は直訳をした方が良いと思います。「のろくても着実に進む者が競争に勝つ」くらいでしょうか。感覚的には **Slow but steady wins the race.** か **Steady though slow wins the race.** の方がいかもしれませんね。要するに **slow** が問題ではなくて **steady** かどうかで勝負が決まるということです。ウサギとカメの童話の教訓もこれですね。もちろん、一番いいのは途中で昼寝をしないで着実に進み続けるウサギなのですけどね。三重中高六年制の諸君が皆知っている「学問の大禁忌は作輟なり」も同じです。この「作輟」は「したりしなかつたり」という意味ですから、それを戒めているということは、学問は **steady** でなければならないということを行っているのです。

以前、平成国際大学の浅野先生があるところに書いていらっしゃいました。「忍耐力や集中力、論理性と創造性、想像力、他者を思いやり周囲に感謝する心は、時間をかけてしっかり身に付けるべき事項である。そこには都合の良い、効率的な方法はない。むしろ無駄や回り道を恐れず、時間をかけて取り組み、課題を克服する過程で気づき、身に付くものだろう」と。時短とは真逆の発想ですね。勉強は時短という概念とは無縁であることを諸君は肝に銘ずべきでしょう。浅野先生の言われることは正しいと思います。忍耐力自身、時間をかけないと作り上げられないのですからね。

今週のおすすめ

・桜井美奈 『塙の中の美容室』 (双葉文庫)

塙の中にも美容室があると言われると、受刑者の髪を切るための施設だと思えますよね。ところが刑務所には受刑者が美容師をしている美容室があるのだそうです。お客さんは一般の方です。私も初めて知りました。どの刑務所にもあるのでしょうか。これはいい訓練ですよ。出所してから腕に技術があった方がいいわけですから、志のある受刑者には喜ばしい仕組みですね。ドラマも始まるようですよ。主人公小松原葉留を演じるのは奈緒さんです。私の感想としてはイメージ通りの配役です。

この本、タイトルだけを読めば奈緒さん演じる塙の中の美容師の再生物語だと思っていたのですが、実際に読み進めるとそういう面ももちろんあるのですが、ここを訪れる女性たちの物語といった方がいいと思います。休みのとれないドラマ班のAD、嫁姑問題で同居から一人暮らしに戻ったおばあさん、受刑者に技術を教えるプロの美容師、髪の毛のパーツモデルをしているのだが、ある事情で髪を切らなければならなくなったモデル、万引きしそうな女子中学生、それらの人々が「あおぞら美容室」を経て前向きに人生を歩み始める、そんな素敵な物語です。そして最後には主人公葉留さんの物語で幕を閉じます。私は中年の女子刑務官に会いたくなりました。この人がなかなかいい味を出してしまして、物語に彩りを与えているのです。

BGMは Uru の *それを愛と呼ぶなら* でした…。